

山口大学

## 学生特別支援室だより

## News Letter



## 障害等のある学生の修学支援と支援機器

障害等のある学生への支援の方法はさまざまです。

それは、障害や疾病の種類や程度によって必要な支援が異なったり、何の目的でどのような場面で求められる支援なのかによって支援方法が調整されるからです。また、支援の現場では、様々な支援機器や支援技術が活用されており、技術の進歩や機器の導入によって、支援の方法も更新されています。

ニュースレター第11号・第12号では、最近活躍している支援機器や支援技術を取り上げます。

## 「支援機器」の活用

障害等のある学生の修学に便利な支援機器や支援技術は、数多く世に出回っています。技術の進歩により、特別な知識やスキルを持たなくても簡単に使えるものも多くなってきました。また、パソコンやスマホに備わっている機能やアプリを活用することで、自分なりの情報取得や管理・閲覧方法を工夫することも難しくありません。

コロナ禍では対面にてリアルタイムで支援を実施することが難しい場面もあり得ますが、そんな中、遠隔での支援技術や、障害のある学生が自分で使える機器は大活躍しています。ICT (Information Communication Technology) を使いこなしたり、支援機器をうまく導入することは、支援の幅を広げ、修学環境のアクセシビリティを高める可能性を大いに秘めています。



## 「人」による支援

支援機器が進歩し、支援機器を使った支援が広まりつつあるところですが、支援を人に頼る場面も少なくありません。

移動のサポート、授業の情報保障、支援機器のメンテナンスなど、キャンパス内の修学支援として、人による支援＝「人的支援」が実施されています。人的支援は、特別なスキルを持った支援者が活躍する支援もあれば、一般的な学生対応の一環として実施されることもあります。また、授業担当の先生にご協力をお願いするものから、学生特別支援室の学生スタッフが担当するものまで、さまざまです。

人的支援では、必要な人材を安定的に確保できるかが課題です。人に頼れない時は機材で、設備や機材等のハードに依存できない場合はソフトで工夫しながらサポートを実施する必要があります。機材か人かは、時に補完的な選択肢でありながら、組み合わせることで、より効果的な支援を狙うこともできます。支援機器と人的支援、それぞれの特徴を生かしつつ、時に相乗効果を図りながら修学環境の充実を目指していきたいところです。



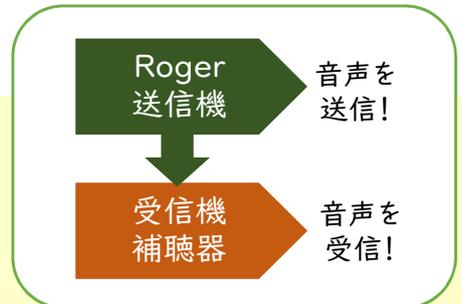


# デジタル補聴システム ～Rogerシリーズ～

学生特別支援室では、さまざまなニーズに対応できるよう、多様な支援機器を整備しています。今回は、学生特別支援室が備えている支援機器のうち、聞こえをサポートするデジタル補聴援助システム「Roger(ロジャー)」シリーズをご紹介します。

Roger(ロジャー)は、デジタル補聴援助システムです。

- クリアな音を直接耳元に届けることができます。
- 聴覚障害の種類や程度によっては、聞こえの補助に有効です。
- 用途に合わせて様々な機器が展開されており、機器を組み合わせたり、モードを切り替えることで、講義やプレゼン、グループディスカッション、インタビュー等での聞き取りを補助することができます。



## 送信機① タッチスクリーンマイク

- シリーズの中でもオーソドックスな、話者が使うワイヤレスマイクです。
- 発話者(教員など)が首に掛けたり、テーブルの上に置いてグループの会話を拾ったりできます。
- タッチスクリーンで操作します。



## 送信機② ロジャーペン

- 話者が使うペン型マイクです。
- 本体上部を話者に向けて使用します。
- ハンドマイクとして使用したり、グループワークに便利な卓上モードに切り替えたりすることができます。



## 送信機③ ロジャーセレクト

- テーブル上に置いて複数人の声を同時に受信したり、話者が胸元に装着して使用したりできます。
- 集音の方向を指定できるのが特徴です。





## 送信機④

### パスアラウンドマイク (子機)

- 話者が使うハンドマイクです。
- タッチスクリーンマイクと接続することで、複数名の発話内容をきくことができます。
- 付属スタンドに立てても使えます。
- グループディスカッションや、質疑応答など、話者が複数名いる場合に便利です。

※ 親機(タッチスクリーンマイク)が必要です。  
パスアラウンドマイク単体では機能しません。



ハンドマイク



付属スタンド

## 送信機⑤

### マルチメディアハブ

- 音響機器からの音を受信機に送信することができます。
- タッチスクリーンマイクと併用することで、音響機器からの音と話者の声を同時に聞くことができます。
- ビデオの視聴やリスニング等に便利です。



パソコンや音響機器とケーブルでつないで使用



## 受信機

### ロジャーリンク

- 「送信機」と接続することで送信された音声を受信します。
- 学生特別支援室では、機材の接続が確実にできているか、送信した音を確認するため、ヘッドホン等を接続して使用することが多いです。
- 本体側面のボタンで音量調節が可能です。

※ Roger対応の補聴器では、送信機と補聴器を接続することで、補聴器のみで音声を受信できます。(ロジャーリンクは必要ありません。)

送信機に接続して使用



ヘッドホンで受信音声を確認!

## 送信機「首掛けモード」でのお願い

### ● 持たないで!

首掛けモードでは、マイクを持ったまま話さないでください。集音性が低くなってしまいます。

### ● 雑音に注意!

首にかけた送信機をジャケットが覆っていませんか?

ネックレスやネクタイピンが、マイクに触れていませんか?

胸ポケットに入れると、集音性が下がるだけでなく摩擦音を拾ってしまうかもしれません。



# ロジャー送信機 利用距離の目安

送信機	受信機利用 可能距離(約)	集音距離 (目安)	
タッチスクリーンマイク	屋内 30m 屋外 20m	首掛けモード 小グループモード インタビューモード	0.2m 3m ※ 4m
ロジャーペン	屋内 15m 屋外 10m	首掛けモード インタビューモード 卓上モード	0.15~0.20m 1~4m 1~3m
ロジャーセレクト	40m※	首掛けモード センターキー セレクトキー	0.3m 3~6m※ 5~7m※
パスアラウンドマイク	20m	手持ちモード マイクスタンドモード	0.05~0.10m 0.30~0.90m

※山口大学SSR調べ

## 例えば、「タッチスクリーンマイク」の場合・・・



## Roger × 音声認識

- 音声の聞き取りが難しい場合は、Rogerで集音した音声情報を「音声認識ソフト」にかけて、視覚情報として確認する方法もあります。
- ノートテイク(サポーターによる要約筆記)の実施が難しい場合や、自分の手で気軽に情報を変換したい場合等に便利です!



<協力> 令和3年度SSR学生スタッフ:

田村(人文3年)、川相(農3年)、野上(国際総合3年)、源川(国際総合4年)、児玉(国際総合2年)、大坪(理2年)、石根(経済3年)、森岡(農3年)、藤本(経済4年)、赤尾(経済3年)、川口(人文3年)、浅田(教育2年)、近藤(農2年)、増田(国際総合1年)、江崎(国際総合1年)

### <問い合わせ先>

山口大学 学生特別支援室(SSR)  
 利用時間: 10:00~18:00(土日・祝日を除く)  
 場所: 共通教育本館1階 就職支援室横  
 TEL: 083-933-5256  
 E-mail: shien@yamaguchi-u.ac.jp